

瀬戸内海環境保全特別措置法に 基づく事前評価に関する書面

令和 7 年 8 月 18 日

申請者の住所及び氏名（法人にあっては所在地、名称、代表者名）

山口県防府市大字田島無番地 航空自衛隊防府南基地

防府南基地基地司令 山脇 康博

1. 許可申請の概要

(1) 工場の概要

工場又は 事業場の 名称	航空自衛隊 防府南基地			
所在地	山口県防府市大字田島無番地			
業 種	防衛省	従 業 員 数	2,200人	
主要製品名	—			
特 定 施 設 (番号・名称・ 基数)	7 2. し尿処理施設 1 基			
排 水 量	通 常	747m ³ /日	最 大	767m ³ /日
排水量及び 負 荷 量 の 増 減	排水量 増減無 負荷量 増減無			
排 水 処 理 施 設 の 種 類 及 び 数	し尿処理施設（合併処理浄化槽 2, 200人槽） 1 基			

(2) 特定施設の設置（変更）の理由及び概要

既設施設は、昭和 49 年稼働で設置後 50 年以上が経過し、老朽化が著しい為に施設全体を更新するものです。

(3) 排水口における排出水の汚染状態及び量が減少（変わらず）の場合は理由

変わらず
（理由）

排水口 No.1 は、処理施設を更新するもので、汚染状態及び量を継承します。
それ以外の排水口は、全て既設をそのまま使用しますので、汚染状態及び量の変更がありません。

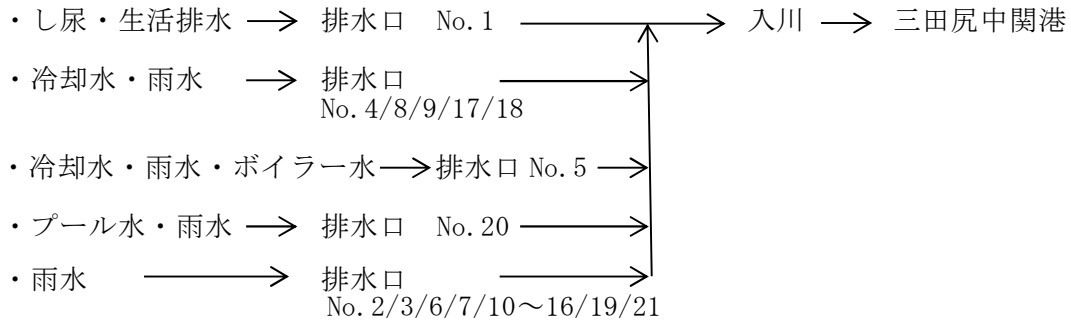
2. 施行規則第4条第1項の既定に関する事項

(1) 工場又は事業場からの排水経路並びに工場又は事業場の排水口の位置及び数

ア 排水口の位置 添付図 第1図のとおり

イ 排水口の数 21カ所

ウ 排水系統及び水系図の略図



(2) 工場又は事業場の排水口の周辺の公共用水域について定められている水質汚濁に係る環境基準 準その他水質汚濁に係る環境保全上の目標に関する事項

ア 水質汚濁に係る環境基準

(ア) 人の健康に係る環境基準

項目	カドミウム	全シアン	鉛	六価クロム	砒素	総水銀	アルキル水銀	P C B	クロロメタン
基準値	0.003 mg/ℓ 以下	検出されないこと	0.01 mg/ℓ 以下	0.02 mg/ℓ 以下	0.01 mg/ℓ 以下	0.0005 mg/ℓ 以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02 mg/ℓ 以下

項目	四塩化炭素	1,2-ジクロロエタン	1,1-ジクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチレン	1,1,1-トリクロロエタン	1,1,2-トリクロロエタン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	1,3-ジクロロプロペン
基準値	0.002 mg/ℓ 以下	0.004 mg/ℓ 以下	0.1 mg/ℓ 以下	0.04 mg/ℓ 以下	1 mg/ℓ 以下	0.006 mg/ℓ 以下	0.01 mg/ℓ 以下	0.01 mg/ℓ 以下	0.002 mg/ℓ 以下

項目	チウラム	シマジン(CAT)	チオベンカルブ(ベンチオカーブ)	ベンゼン	セレン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ふっ素	ほう素	1,4-ジオキサン
基準値	0.006 mg/ℓ 以下	0.003 mg/ℓ 以下	0.02 mg/ℓ 以下	0.01 mg/ℓ 以下	0.01 mg/ℓ 以下	10 mg/ℓ 以下	0.8 mg/ℓ 以下	1 mg/ℓ 以下	0.05 mg/ℓ 以下

- 備考 1 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。
 2 「検出されないこと」とは、定められた方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。
 3 海域については、ふっ素及びほう素の基準は適用しない。

(イ) 生活環境に係る環境基準

排出先の河川・海域名		中関・大海 海域			
環境基準点		WD-1			
環境基準類型		B・II			
基準 値	水素イオン濃度 (PH)	7.8~8.3			
	生物化学的酸素要求量 (BOD) mg/ℓ	—			
	化学的酸素要求量 (COD) mg/ℓ	3 以下			
	浮遊物質 量 (SS) mg/ℓ	—			
	溶存酸素 量 (DO) mg/ℓ	5 以下			
	大腸菌 数 CFU/100ml	—			
	n-ヘキサン抽出物質 量 mg/ℓ	検出されな いこと			
	全窒素 mg/ℓ	0.3			
	全燐 mg/ℓ	0.03			

イ その他の水質汚濁に係る環境保全上の目標

(3) 工場又は事業場の各排水口における排出水の汚染状態の通常値及び最大値並びに当該排出水の1日当たりの通常量及び最大量並びに当該排出水の汚濁負荷量

排水口 番号又は 名称	区 分 項 目	現 状			設 置 (変更) 後			負荷量の 増 減
		通 常	最 大	※ 負荷量	通 常	最 大	※ 負荷量	
No. 1	排水量 m ³ /日	726	726		726	726		
	水素イオン濃度 (PH)	7.0	6.0～ 8.0		7.0	6.0～ 8.0		
	生物化学的酸素 要求量 (BOD)	20	30	14.52	20	30	14.52	増減無
	化学的酸素要求 量 (COD)	30	30	21.78	30	30	21.78	増減無
	浮 遊 物 質 量 (SS)	50	60	36.30	50	60	36.30	増減無
	全 窒 素 (T-N)	15	20	10.89	15	20	10.89	増減無
	全 磷 (T-P)	2	3	1.45	2	3	1.45	増減無
No. 4/8 /18 (冷却水 +雨水)	排水量 m ³ /日	1	2		1	2		
	水素イオン濃度 (PH)	7.0	6.0～ 8.0		7.0	6.0～ 8.0		
	生物化学的酸素 要求量 (BOD)	3	5	0.006	3	5	0.006	増減無
	化学的酸素要求 量 (COD)	3	5	0.006	3	5	0.006	増減無
	浮 遊 物 質 量 (SS)	5	10	0.01	5	10	0.01	増減無
	全 窒 素 (T-N)	2	3	0.004	2	3	0.004	増減無
	全 磷 (T-P)	1	2	0.002	1	2	0.002	増減無

※ 負荷量 (kg/日) = 最大排出量 (m³/日) × 通常水質 (mg/ℓ) × 10⁻³

排水口 番号又は 名 称	区 分 項 目	現 状			設 置 (変更) 後			負荷量の 増 減
		通 常	最 大	※ 負荷量	通 常	最 大	※ 負荷量	
No. 5 (冷却水 +ボイラー水 +雨水)	排水量 m ³ /日	6	12		6	12		
	水素イオン濃度 (PH)	7.0	6.0～ 8.0		7.0	6.0～ 8.0		
	生物化学的酸素 要求量 (BOD)	10	15	0.12	10	15	0.12	増減無
	化学的酸素要求 量 (COD)	10	15	0.12	10	15	0.12	増減無
	浮 遊 物 質 量 (SS)	5	10	0.06	5	10	0.06	増減無
	全 窒 素 (T-N)	2	3	0.02	2	3	0.02	増減無
	全 磷 (T-P)	1	2	0.01	1	2	0.01	増減無
No. 9/17 (冷却水 +雨水)	排水量 m ³ /日	2	4		2	4		
	水素イオン濃度 (PH)	7.0	6.0～ 8.0		7.0	6.0～ 8.0		
	生物化学的酸素 要求量 (BOD)	3	5	0.01	3	5	0.01	増減無
	化学的酸素要求 量 (COD)	3	5	0.01	3	5	0.01	増減無
	浮 遊 物 質 量 (SS)	5	10	0.02	5	10	0.02	増減無
	全 窒 素 (T-N)	2	3	0.008	2	3	0.008	増減無
	全 磷 (T-P)	1	2	0.004	1	2	0.004	増減無

※ 負荷量 (kg/日) = 最大排出量 (m³/日) × 通常水質 (mg/ℓ) × 10⁻³

排水口 番号又は 名 称	区 分 項 目	現 状			設 置 (変更) 後			負荷量の 増 減
		通 常	最 大	※ 負荷量	通 常	最 大	※ 負荷量	
No. 20 (プール水 + 雨水)	排水量 m ³ /日	8	15		8	15		
	水素イオン濃度 (PH)	7.5	6.5～ 8.5		7.5	6.5～ 8.5		
	生物化学的酸素 要求量 (BOD)	3	5	0.05	3	5	0.05	増減無
	化学的酸素要求 量 (COD)	3	5	0.05	3	5	0.05	増減無
	浮 遊 物 質 量 (SS)	1	2	0.02	1	2	0.02	増減無
	全 窒 素 (T-N)	2	3	0.03	2	3	0.03	増減無
	全 磷 (T-P)	1	2	0.02	1	2	0.02	増減無
No. 2/3/ 6/7/10 ～16/19 /21 (雨水 のみ)	排水量 m ³ /日							
	水素イオン濃度 (PH)							
	生物化学的酸素 要求量 (BOD)							
	化学的酸素要求 量 (COD)							
	浮 遊 物 質 量 (SS)							
	全 窒 素 (T-N)							
	全 磷 (T-P)							

※ 負荷量 (kg/日) = 最大排出量 (m³/日) × 通常水質 (mg/ℓ) × 10⁻³

排水口 番号又は 名 称	区 分 項 目	現 状			設 置 (変更) 後			負荷量の 増 減
		通 常	最 大	※ 負荷量	通 常	最 大	※ 負荷量	
負荷量 の 合計	排水量 m ³ /日	747	767		747	767		
	水素イオン濃度 (PH)	7.0	6.0～ 8.0		7.0	6.0～ 8.0		
	生物化学的酸素 要求量 (BOD)	20	29	14.73	20	29	14.73	増減無
	化学的酸素要求 量 (COD)	29	29	21.99	29	29	21.99	増減無
	浮 遊 物 質 量 (SS)	49	57	36.45	49	57	36.45	増減無
	全 窒 素 (T-N)	15	19	10.97	15	19	10.97	増減無
	全 磷 (T-P)	2	3	1.49	2	3	1.49	増減無

※ 負荷量 (kg/日) = 最大排出量 (m³/日) × 通常水質 (mg/ℓ) × 10⁻³

(4) 周辺公共用水域の水質の現況及び排出水の排出に伴い予測される周辺公共用水域の水質の変化の程度

ア 海 域

採水機関名		分析機関名	
-------	--	-------	--

測 定 点 名									
採水年月日及び時間	区分	項目	水温(℃)	p H	COD (mg/ℓ)	SS (mg/ℓ)	T-N (mg/ℓ)	T-P (mg/ℓ)	DO (mg/ℓ)
第1回 年 月 日 時 分 干満の別：	水	表 層							
		中 層							
		平 均							
第2回 年 月 日 時 分 干満の別：	質	表 層							
		中 層							
		平 均							
第3回 年 月 日 時 分 干満の別：	の	表 層							
		中 層							
		平 均							
第3回 年 月 日 時 分 干満の別：	現	表 層							
		中 層							
		平 均							
総 平 均									
将 来 水 質									

測 定 点 名									
採水年月日及び時間	区分	項目	水温(℃)	p H	COD (mg/ℓ)	SS (mg/ℓ)	T-N (mg/ℓ)	T-P (mg/ℓ)	DO (mg/ℓ)
第1回 年 月 日 時 分 干満の別：	水	表 層							
		中 層							
		平 均							
第2回 年 月 日 時 分 干満の別：	質	表 層							
		中 層							
		平 均							
第3回 年 月 日 時 分 干満の別：	の	表 層							
		中 層							
		平 均							
第3回 年 月 日 時 分 干満の別：	現	表 層							
		中 層							
		平 均							
総 平 均									
将 来 水 質									

測 定 点 名										
採水年月日及び時間		区分 項目		水温(℃)	p H	COD (mg/ℓ)	SS (mg/ℓ)	T-N (mg/ℓ)	T-P (mg/ℓ)	DO (mg/ℓ)
第1回 年 月 日 時 分 干満の別：	水 質 の 現 況	表 層								
		中 層								
		平 均								
第2回 年 月 日 時 分 干満の別：		表 層								
		中 層								
		平 均								
第3回 年 月 日 時 分 干満の別：		表 層								
		中 層								
		平 均								
総 平 均										
将 来 水 質										

イ 河 川

採水機関名						分析機関名				
水域・測定点名		項目 区分・日時	p H	BOD (mg/ℓ)	COD (mg/ℓ)	SS (mg/ℓ)	T-N (mg/ℓ)	T-P (mg/ℓ)	流量 (m³/日)	DO (mg/ℓ)
	月	:								
		:								
		:								
	日	:								
平 均										
将 来 水 質										
	月	:								
		:								
		:								
	日	:								
平 均										
将 来 水 質										
	月	:								
		:								
		:								
	日	:								
平 均										
将 来 水 質										

ウ その他当該水域に関する事項

環境基準点における水質測定結果は次のとおりです。（出典：令和6年版 山口県環境白書）

（ア）海 域

水域・ 測定点名	項目 区分	水温 (°C)	p H	C O D (mg/ℓ)	S S (mg/ℓ)	T－N (mg/ℓ)	T－P (mg/ℓ)	D O (mg/ℓ)
	水質の 現況 (年平均)	—	8.2	1.5	—	0.12	0.0175	8.3

(5) 影響範囲及び予測の方法

ア 汚濁負荷量の増加の有無 （ 有 ・ ○無 ）

（ただし、汚濁負荷量の増加がない場合は、イ以下は省略する。）

イ 排水水の公共用水域での影響範囲

添付第 図

ウ 予測の方法

ア) 海 域

(1) 新田式（ $\log(r_2 \theta / 2) = 1.226 \log Q + 0.086$ ）から求めた周辺公共用水域の外縁までの距離（ r ）は、 m です。

（注） $\theta =$ （拡散角度）

$Q =$ $m^3 / 日$ （最大排水量）

(2) ヨーゼフ・ゼンドナー式 $\{ C = 1 - \exp(-\frac{Q_0}{\theta d p} (\frac{1}{x} - \frac{1}{\ell})) \}$

から求めた希釈率（ C ）は次のとおりです。

$C(r / 3 \text{ の地点}) =$

$C(2r / 3 \text{ の地点}) =$

$C(r \text{ の地点}) = 0$

（注） $Q_0 =$ $m^3 / 日$ （最大排水量）

$$\theta = \quad \quad \quad (\text{拡散角度})$$

$$d = 2 \text{ m}$$

$$p = 864 \text{ m/日}$$

$$x = \quad \text{m}, \quad \text{m} (\text{ r/3、2r/3 の距離})$$

$$\ell = \quad \text{m} (\text{ r の距離})$$

(3) $S' = S_1 + (S_0 - S_1) \cdot C$ から将来の水質を予測すると、

(r/3 の地点)

$$S' (\text{COD}) = \quad + (\quad - \quad) =$$

$$S' (\text{SS}) = \quad + (\quad - \quad) =$$

$$S' (\text{T-N}) = \quad + (\quad - \quad) =$$

$$S' (\text{T-P}) = \quad + (\quad - \quad) =$$

(2r/3 の地点)

$$S' (\text{COD}) = \quad + (\quad - \quad) =$$

$$S' (\text{SS}) = \quad + (\quad - \quad) =$$

$$S' (\text{T-N}) = \quad + (\quad - \quad) =$$

$$S' (\text{T-P}) = \quad + (\quad - \quad) =$$

(r の地点)

$$S' (\text{COD}) = \quad + (\quad - \quad) =$$

$$S' (\text{SS}) = \quad + (\quad - \quad) =$$

$$S' (\text{T-N}) = \quad + (\quad - \quad) =$$

$$S' (\text{T-P}) = \quad + (\quad - \quad) =$$

イ) 河 川

$$S' = \frac{SQ + (S_0 Q_0 - S_0' Q_0')}{Q + (Q_0 - Q_0')} \text{ から将来の水質を予測すると、}$$

地点名 (\quad)

$$S' (\text{BOD}) = \quad =$$

$$S' (\text{COD}) = \quad =$$

S' (SS) =

=

S' (T-N) =

=

S' (T-P) =

=

地点名 ()

S' (BOD) =

=

S' (COD) =

=

S' (SS) =

=

S' (T-N) =

=

S' (T-P) =

=

地点名 ()

S' (BOD) =

=

S' (COD) =

=

S' (SS) =

=

S' (T-N) =

=

S' (T-P) =

=

(6) その他当該特定施設の設置が環境に及ぼす影響についての事前評価に関して参考となるべき事項

添付第1図

